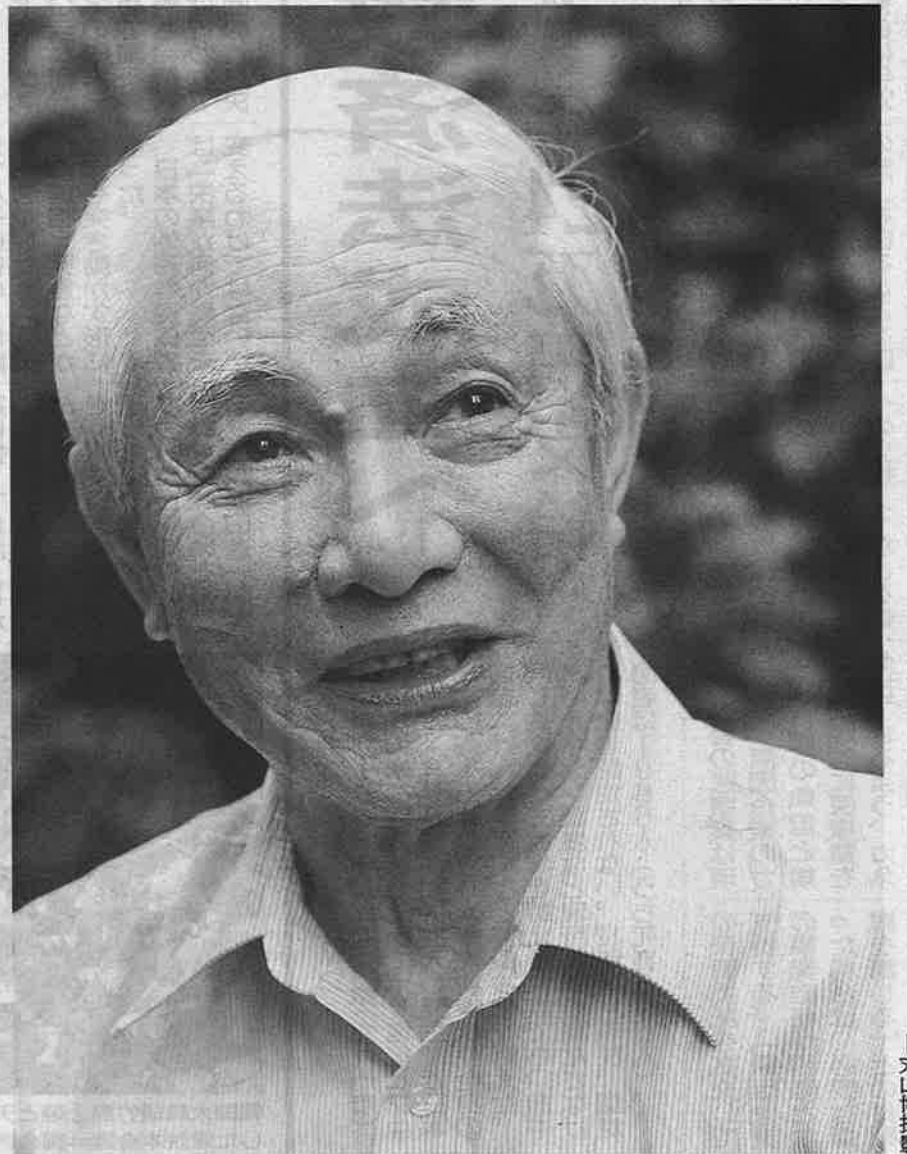


特集ワイド

原発の呪縛 日本よ!

この国はどこへ
行こうとしているのか



丸山博撮影

地球物理学者 石井吉徳さん(79)

いい・よしのり 1933年生まれ、東大理学部卒(地球物理学)。帝国石油(現・国際石油開発帝石)入社。その後、東大教授、国立環境研究所所長を務めた。東大名誉教授、NPO法人もつたない学会会長。著書に「石油ピークが来た」など。

石井さんは、昨年の福島第一原子力発電所事故まで「原子力はむしろ必要だ」と思っていました。正直に告白する。ウランは有限だが、核燃料サイクルが技術的に確立すれば、使用済みものから核燃料を作り出せる。高速増殖炉型炉も同じ(福井県敦賀市)への期待もあった。しかしここでは、ナトリウム漏れ事故(95年)、炉内中継装置落下事故(10年)が相次いだ。

自然は有限 脱浪費を

「人は自然の恵みで生かされている」
豊敷の大広間教室に、やや早口の声が響く。8月1日、長野県大町の信濃木崎夏期大学初日。講師陣9人のトップを務めたのが、石井吉徳さんだ。「恵みのひとつが石油。だが、生産はピークを迎えた」。今と同じようにエネルギーを使っていては、社会が成り立たなくなる。では、どうしたらいいのか。講義は熱帯帯びていった。

JR信濃大町駅から車で約15分。北アルプスを望む木崎湖畔の小高い丘に、木造平屋建ての「校舎」が建つ。夏期大学は、地域の教職員が中心となって運営する。1917(大正6)年から続く生涯学習の場だ。この日は約250人が聴講した。

「石油生産にピークがある」という「石油ピーク論」。海外ではよく知られる考えだが、日本では主張する人は少ない。探査や掘削技術が進歩する限り、それまで掘れなかったところでの新たな油田開発が可能となり、生産のピークは訪れないと反論されてきた。石油危機を乗り越え、石油の恵みを経済成長に変えてきた歴史がその反論を裏付けた。コップにある半分の水を、まだ半分あると見るか、あと半分だけと見るかの違い(エネルギー業界関係者)との指摘もある。しかも最近では、非在来型石油のオイルサンドやオイルシールなどが大量に埋蔵されているとわかり、新たな資源として期待がかかる。

「地球は有限」と確信させていたからだ。

必要で、石油などの在来型より高価になり、環境に与える影響も大きいとしている。

「資源は有限なのに、技術に過剰な自信を持っている日本人が特に、技術で何とかできると考える。原子力発電や核燃料サイクルは、その典型でしょう。技術至上主義は安全神話を生み出した」

旧制中学一年生のとき、終戦を埼玉で迎えた。真っ赤に燃える東京が目にした。燃えている。終戦近くになっても大人は「日本には神風が吹く、大丈夫だ」と言っていました。神風? 何だそれかと思っていました。日本人はどんなときでも何とかなると考えがちである。それが、それが端的に示しています。それが今につながる。

「特集ワイド」へご意見、ご感想を t.yukan@mainichi.co.jp ファクス03・3212・0279

ポップカルチャーの最前線

http://mantan-web.jp/

まんがたのびプレス

82回目多

マンガやテレビ、映画「まんがたのびプレス」。今回は、即売会として人気の「ゴベント」として知られる82最多タイの56万人が訪れ、人気の理由を探った。

1975年に始まったコミケは、わずか32サークル、700人の参加者だったが、ポップカルチャーを趣味にする人たちのコミュニティとして次第に参加者が増加。現在、年2回開催され、1回約35000サークルが参加、会場は50万人を超える人だ。昨年は東日本大震災の後ということもあり、5年ぶりに減少したが、今年は3月に1日の動員数としては過去最高となる21万人を記録。3日間でも56万人を集め、10年夏と並ぶ最多タイだった。

「コミケのメインは、同人誌を扱う「一般ブース」で、プロの作家やイラストレーターも参加しており、彼らの創作物を自営で訪れる人も多い。午前10時の開場直後から来場者が詰めかけ、満員電並みの混雑だ。



「コミックマーケット」に